

国際生活機能分類 ICF (3 問)

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 18-85 国際生活機能分類(ICF)について正しい記述はどれか。

1. 対象を障害者に限定して作成された分類法である。
2. 各構成要素の因果関係は両方向性である。
3. 生活機能とは日常生活動作のことである。
4. 個人因子とは健康状態のことである。

はき 22-84 国際生活機能分類(ICF)の構成要素で「参加」に該当するのはどれか。

1. 屋内手すりの設置
2. 短下肢装具の作製
3. 残存筋の強化
4. 麻痺手の回復訓練

はき 26-82 ICF の「活動」に該当するのはどれか。

1. 復学
2. 家屋改修
3. 障害年金受給
4. 義足作製

国際生活機能分類 ICF (5 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 16-91 国際生活機能分類(ICF)において、「課題や行為の個人による遂行」にあたるのはどれか。

1. 心身機能
2. 身体構造
3. 活 動
4. 参 加

あ 17-91 国際生活機能分類の障害レベルについて正しい組合せはどれか。

1. 片麻痺 ————— 活動制限
2. 更衣動作困難 —— 機能障害
3. 復職困難 ————— 参加制約
4. 排尿障害 ————— 参加制約

あ 20-91 国際生活機能分類(ICF)において、「活動」に該当するリハビリテーションはどれか。

1. 神経筋促通法
2. 就労支援
3. 関節可動域訓練
4. 利き手交換

あ 23-79 ICFの「参加」に該当する内容はどれか。

1. 復職
2. 片麻痺
3. 更衣動作
4. 高次脳機能障害

あ 25-79 ICFの「活動」に該当する内容はどれか。

1. 腎機能
2. 調理
3. 筋力
4. 医療制度

ノーマライゼーション・IL運動（2問）

はき国家試験 リハビリテーション医学

【ノーマライゼーション】

なし

【IL運動】

はき 12-89 IL運動（自立生活運動）の思想で正しいのはどれか。

1. 身の回りのことで他人の助けを借りてはならない。
2. 障害者の自己決定には責任と義務を伴う。
3. 職業を身につけることを最高の目標とする。
4. 障害者だけが住む施設内で生活する。

はき 19-84 IL運動（自立生活運動）の思想で正しいのはどれか。

1. 家族から経済的援助を受ける。
2. 障害者施設に入所する。
3. 自己決定権を尊重する。
4. 日常生活で介助を受けない。

【ノーマライゼーション】

あ 13-97 ノーマライゼーションの考え方として正しいのはどれか。

1. 障害のある者とない者が地域で共に暮らす。
2. 理学療法によって身体障害を取り除く。
3. 障害者同士の心の交流を図る会を作る。
4. 障害者の健康増進を目指す。

あ 19-92 ノーマライゼーションの基本理念はどれか。

1. 障害者同士が交流を図る。
2. 障害者が健康増進を目指す。
3. 障害者が訓練により機能を回復する。
4. 障害者と健常者が地域で共に暮らす。

あ 22-91 ノーマライゼーションとして正しいのはどれか。

1. 施設内の介護
2. 運動療法の施行
3. エレベーターの導入
4. 障害者同士の交流

あ 28-79 ノーマライゼーションの考え方として正しいのはどれか。

1. 障害者施設を増やす。
2. 障害者同士の交流を深める。
3. 障害者の機能回復を促進する。
4. 障害者と健常者が地域で共に生活する。

【IL 運動】

なし

はき 14-87 成人の身体障害者について正しい記述はどれか。

1. 嚥下障害は聴覚・言語障害に分類される。
2. 最近では視覚障害者の増加率が最も高い。
3. 糖尿病は内部障害者として分類される。
4. 肢体不自由障害者の割合が最も多い。

はき 18-84 身体障害者の分類で割合が増加しているのはどれか。

1. 肢体不自由
2. 視覚障害
3. 内部障害
4. 聴覚・言語障害

身体障害（3問）

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 4-97 身体障害者福祉法に基づく内部障害でないのはどれか。

1. 心機能障害
2. 肝機能障害
3. 腎機能障害
4. 直腸膀胱障害

あ 7-98 身体障害に含まれないのはどれか。

1. 肢体不自由
2. 内部障害
3. 聴覚言語障害
4. てんかん

あ 19-91 18歳以上の在宅身体障害者で最も多い原因疾患はどれか。

1. 脳血管疾患
2. 腎臓疾患
3. 心臓疾患
4. 骨関節疾患

身体障害者手帳（4問）

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 11-89 身体障害者手帳の交付が最も多いのはどれか。

1. 視覚障害
2. 聴覚・言語障害
3. 肢体不自由
4. 内部障害

はき 15-84 我が国で身体障害者手帳の対象とならない病態はどれか。

1. 片麻痺
2. 失語症
3. 記憶障害
4. 慢性腎不全

はき 20-84 身体障害者手帳の交付対象でないのはどれか。

1. じん臓機能障害
2. そしゃく・嚥下機能障害
3. 平衡機能障害
4. 高次脳機能障害

はき 21-84 身体障害者手帳の種類と原因疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. 平衡機能障害 ————— 変形性膝関節症
2. 肢体不自由 ————— ベル麻痺
3. そしゃく機能障害 ——— 筋萎縮性側索硬化症
4. 内部障害 ————— パーキンソン病

日常生活動作 ADL (2 問)

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 7-92 日常生活動作として適切でないのはどれか。

1. 歩 行
2. 買 物
3. 食 事
4. 更 衣

はき 14-90 ADL に分類されるのはどれか。

1. 買い物
2. 自動車運転
3. 整容
4. バス乗車

はき 16-87 日常生活動作の評価法の 1 つであるバーセル・インデックスの評価項目に含まれないのはどれか。

1. コミュニケーション
2. 移 乗
3. トイレ動作
4. 入 浴

はき 22-86 ADL 評価の FIM において正しいのはどれか。

1. 書字の項目がある。
2. 認知項目がある。
3. 各項目の点数は 0 点から 10 点である。
4. 総点は 100 点である。

日常生活動作 ADL (1 問)	あまし国家試験 リハビリテーション医学
--------------------	---------------------

あ 3-99 ADL の意味はどれか。

1. 筋力評価
2. 作業療法
3. 生きがい
4. 日常生活活動

あ 18-94 ADL の項目として正しいのはどれか。

1. 掃除
2. 入浴
3. 買物
4. 調理

日常生活関連動作 (APDL) (1 問)	あまし国家試験 リハビリテーション医学
-------------------------	---------------------

あ 12-98 日常生活関連動作 (APDL) はどれか。

1. 整容
2. 洗濯
3. 入浴
4. 更衣

住宅ケア (1 問)	はき国家試験 リハビリテーション医学
--------------	--------------------

はき 19-85 住宅ケアとして利用されるのはどれか。

1. 脳卒中ケアユニット
2. 通所リハビリテーション施設
3. 重度心身障害児病棟
4. 回復期リハビリテーション病棟

はき 26-83 腰痛体操はどれか。

1. フレンケル体操
2. クラップ体操
3. マッケンジー体操
4. バージャー体操

あ 11-100 治療体操と疾患との組合せで誤っているのはどれか。

1. フレンケル体操 — 脊柱側弯症
2. ウイリアムズ体操 — 腰痛症
3. バージャー体操 — 下肢血行障害
4. コッドマン体操 — 肩関節周囲炎

あ 14-103 訓練法と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. ボバース — 五十肩
2. フレンケル — 脳性麻痺
3. コッドマン — 運動失調
4. ウイリアムズ — 腰痛症

あ 15-100 コッドマン体操を行う際の正しい記述はどれか。

1. 直立姿勢で行う。
2. 片側ずつ実施する。
3. 体操前に肩をクーリングする。
4. おもりはできるだけ重いものを用いる。

あ 24-89 ウイリアムズ体操で正しいのはどれか。

1. 体幹の伸展を促す。
2. 腰椎の前弯を増強させる。
3. 肩甲骨周囲筋を強化する。
4. 股関節屈筋群を伸張させる。

あ 28-89 コッドマン体操で正しいのはどれか。

1. 直立位で行う。
2. おもりは 5kg が適切である。
3. おもりを持ち上げる運動を行う。
4. 関節可動域を拡大する。

徒手筋力テスト MMT (6 問)

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 3-91 関節運動が重力に抗して全可動域にわたり可能となる最小の筋力はどれか。

1. 筋力 1
2. 筋力 2
3. 筋力 3
4. 筋力 4

はき 13-90 徒手筋力テストにおいて、重力に逆らうことはできないが、重力がなければ動かせる筋肉のグレードはどれか。

1. MMT4
2. MMT3
3. MMT2
4. MMT1

はき 14-89 大腿四頭筋の徒手筋力テストの際、被検者を側臥位で評価しなければならない筋肉はどれか。

1. MMT0
2. MMT2
3. MMT3
4. MMT5

はき 17-84 徒手筋力テストで筋の収縮はみられるが、関節運動は起こらないのはどれか。

1. MMT 1
2. MMT 2
3. MMT 3
4. MMT 4

はき 18-87 筋力 MMT 2 の関節運動に対し筋力増強目的で運動療法を行う場合に、最も適切なのはどれか。

1. 他動運動
2. 自動運動
3. 自動介助運動
4. 漸増抵抗運動

はき 25-81 中殿筋のMMTについて正しい組み合わせはどれか。

1. MMT1 —— 中殿筋に筋収縮がみられる。
2. MMT2 —— 重力に抗して股関節外転を保持できる。
3. MMT3 —— 中等度の抵抗に抗して股関節外転を保持できる。
4. MMT4 —— 高度の抵抗に抗して股関節外転を保持できる。

徒手筋力テスト MMT (6 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 8-99 徒手筋力テストで重力を除去すれば完全に運動できるのはどれか。

1. 筋力 5
2. 筋力 4
3. 筋力 3
4. 筋力 2

あ 11-98 筋力と運動療法との組合せで適切でないのはどれか。

1. 筋力 0 — 他動運動
2. 筋力 1 — 自動介助運動
3. 筋力 2 — 抵抗運動
4. 筋力 3 — 自動運動

あ 15-92 右大殿筋の徒手筋力テストの際、3 以上の場合に検査時の体位で正しいのはどれか。

1. 背臥位
2. 腹臥位
3. 右側臥位
4. 左側臥位

あ 16-93 徒手筋力テストで MMT3 以上の場合に側臥位で測定するのはどれか。

1. 中殿筋
2. 腸腰筋
3. 大腿四頭筋
4. 前脛骨筋

あ 18-93 肩関節運動に対する徒手筋力テストの際、MMT 2 を評価するとき側臥位で実施するのはどれか。

1. 伸 展
2. 外 転
3. 内 旋
4. 外 旋

あ 22-93 徒手筋力テストで4以上の筋力を評価する際に座位で行うのはどれか。

1. 三角筋前部線維
2. 腹直筋
3. 中殿筋
4. 下腿三頭筋

関節可動域（4問）

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 8-92 関節可動域測定で誤っている記述はどれか。

1. 肩の屈曲は肩峰を通る床への垂直線を基本軸とする。
2. 手関節の屈曲は橈骨と第5中手骨との角度を測る。
3. 股関節の外転は大腿中央線を移動軸とする。
4. 膝の屈曲は大腿骨と腓骨との角度を測る。

はき 15-85 次の運動のなかで関節可動域の角度が最大なのはどれか。

1. 肩関節伸展（後方挙上）
2. 手関節屈曲（掌屈）
3. 股関節外転
4. 膝関節伸展

はき 16-86 関節可動域の測定基本肢位について誤っている組合せはどれか。

1. 肘関節屈曲 — 前腕回内位
2. 手関節橈屈 — 前腕回内位
3. 前腕回内 — 肘関節90度屈曲位
4. 肩関節外旋 — 肘関節90度屈曲位

はき 21-85 関節可動域測定法について正しい記述はどれか。

1. 自動運動で測定する際にはその旨を明記する。
2. 10度単位で測定する。
3. 基本肢位を90度として表示する。
4. 筋の短縮をみるには多関節筋を弛緩させる。

あ 3-101 関節可動域について正しいのはどれか。

1. 股関節屈曲： $0^{\circ} \sim 45^{\circ}$
2. 膝関節屈曲： $0^{\circ} \sim 90^{\circ}$
3. 肘関節屈曲： $0^{\circ} \sim 145^{\circ}$
4. 手関節掌屈： $0^{\circ} \sim 40^{\circ}$

あ 4-98 関節の正常可動範囲で正しいのはどれか。

1. 肩関節屈曲： $0^{\circ} \sim 70^{\circ}$
2. 手関節掌屈： $0^{\circ} \sim 40^{\circ}$
3. 股関節屈曲： $0^{\circ} \sim 70^{\circ}$
4. 足関節底屈： $0^{\circ} \sim 45^{\circ}$

あ 12-100 関節可動域で誤っている記述はどれか。

1. 肩関節屈曲は伸展より大きい。
2. 手関節橈屈は尺屈より大きい。
3. 股関節外転は内転より大きい。
4. 足関節屈曲は伸展より大きい。

あ 14-96 関節運動と最大可動域との組合せで正しいのはどれか。

1. 肩関節外旋 — 45度
2. 前腕回内 — 10度
3. 股関節外旋 — 45度
4. 足関節屈曲（底屈） — 20度

あ 17-92 関節運動と最大可動域との組合せで正しいのはどれか。

1. 片肩関節内転 ————— 30度
2. 肘関節屈曲 ————— 145度
3. 膝関節伸展 ————— 180度
4. 足関節伸展（背屈） ———— 50度

あ 18-92 関節可動域について正しい記述はどれか。

1. 頸部の伸展（後屈）は屈曲（前屈）より大きい。
2. 肩関節の外旋は内旋より大きい。
3. 手関節の屈曲（掌屈）は伸展（背屈）より大きい。
4. 股関節の伸展は屈曲より大きい。

あ 19-95 基本肢位における関節可動域角度で正しいのはどれか。

1. 肩関節外転 30 度
2. 肘関節屈曲 90 度
3. 膝関節伸展 20 度
4. 足関節背屈 0 度

あ 20-93 関節可動域で正しいのはどれか。

1. 足関節底屈：0 度～10 度
2. 前腕回内：0 度～30 度
3. 膝関節屈曲：0 度～60 度
4. 肩関節外転：0 度～180 度

反射（ 1 問 ）	はき国家試験 リハビリテーション医学
-----------	--------------------

はき 25-83 一生続く姿勢反射はどれか。

1. 自動歩行
2. モロー反射
3. パラシュート反射
4. 非対称性緊張性頸反射

反射（ 1 問 ）	あまし国家試験 リハビリテーション医学
-----------	---------------------

あ 1-97 反射現象で誤っているのはどれか。

1. 単シナプス反射は一つのニューロンによって成り立っている。
2. 膝蓋腱反射は大腿四頭筋の伸張反射である。
3. 痙性麻痺では深部腱反射が亢進している。
4. バビンスキー反射は病的反射である。

評価 分類（ 4 問 ）	はき国家試験 リハビリテーション医学
--------------	--------------------

はき 1-89 運動障害の評価法で正しいのはどれか。

1. 足関節の基本肢位を 90° とするのは誤りである。
2. 徒手筋力テストは 4 段階評価法である。
3. ブルンストロームのステージは末梢性麻痺に対する評価段階である。
4. 長谷川式スケールは関節可動域の評価法である。

はき 6-90 弛緩性麻痺の評価で適切でないのはどれか。

1. ブルンストロームのステージ
2. 日常生活動作テスト
3. 徒手筋力テスト
4. 四肢周径の測定

はき 7-90 障害の評価の目的で適切でないのはどれか。

1. 疾患原因の検討
2. 障害原因の検討
3. 治療目標の設定
4. 治療方法の検討

はき 21-86 痙縮の評価に用いるのはどれか。

1. 徒手筋力テスト
2. アシュワーススケール
3. 内田-クレペリンテスト
4. バーセルインデックス

評価 分類 (4 問)	あまし国家試験 リハビリテーション医学
---------------	---------------------

あ 6-98 障害における能力低下の評価はどれか。

1. 関節可動域テスト
2. 徒手筋力テスト
3. 日常生活動作テスト
4. ブルンストロームのステージ

あ 16-100 呼吸困難の程度を表わす分類はどれか。

1. ヒュー・ジョーンズ
2. スタインブロッカー
3. ウェクスラー
4. ブルンストローム

あ 19-94 運動の協調性をみる評価法はどれか。

1. 徒手筋力テスト
2. 拮抗運動反復テスト
3. バーセルインデックス
4. ブルンストロームステージ

あ 25-81 高次脳機能障害の評価で正しいのはどれか。

1. バーセルインデックス
2. 線分抹消テスト
3. 徒手筋力テスト
4. 拮抗運動反復テスト

改訂長谷川式簡易知能評価スケール（ 1 問 ）

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 12-90 改訂長谷川式簡易知能評価スケールの質問内容で誤っているのはどれか。

1. 年 齢
2. 言葉の記憶
3. 数字の逆唱
4. 漢字の読み

改訂長谷川式簡易知能評価スケール（ 2 問 ）

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 16-94 改訂版長谷川式簡易知能評価スケールの質問内容として誤っているのはどれか。

1. お歳はいくつですか。
2. 右手を上げて下さい。
3. これから言う数字を逆から言って下さい。
4. 100 から 7 を順番に引いて下さい。

あ 23-80 改訂長谷川式簡易知能評価スケールで正しい質問はどれか。

1. 足し算
2. 生年月日
3. 数字の逆唱
4. 昨日の出来事

心臓リハビリテーション（ 5 問 ）

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 2-96 心疾患の運動負荷試験について誤っている記述はどれか。

1. マスター2 階段法は段差を次第に高くする。
2. トレッドミルはベルトの傾斜やスピードを変化させる。
3. 自転車エルゴメーターは運動量をワット単位で表示できる。
4. 負荷が過大になれば心電図異常が出現しやすい。

はき 8-96 心疾患における運動強度の指標として適切でないのはどれか。

1. 6分間歩行テスト
2. メッツ (MET S)
3. 脈拍数
4. 血 圧

はき 24-86 急性心筋梗塞後のリハビリテーションについて最も適切なのはどれか。

1. 外来では行わない。
2. 6週間プログラムで行う。
3. 負荷試験をしながら進める。
4. 最大酸素摂取量での心拍数まで行う。

はき 25-87 心臓リハビリテーションの適応となるのはどれか。

1. うっ血性心不全 (NYHA IV 度)
2. 急性大動脈解離
3. 高度な大動脈弁狭窄
4. 冠動脈バイパス術後

はき 27-86 心臓リハビリテーションにおける運動負荷試験の中止基準として正しいのはどれか。

1. 疲 労
2. 息切れ
3. 筋肉痛
4. チアノーゼ

心臓リハビリテーション (1 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 25-88 心臓リハビリテーションにおける運動療法の禁忌はどれか。

1. 心移植後
2. 冠動脈形成術後
3. 不安定狭心症
4. 末梢動脈閉塞性疾患

はき 3-89 運動の強度メツツ (MET S) について正しい組合せはどれか。

1. 散歩 — 1~2
2. ボーリング — 2~4
3. ジョギング — 5~6
4. 登山 — 7~8

あ 8-98 四肢の計測で誤っている組合せはどれか。

1. 上肢長 ————— 肩峰から示指尖
2. 下肢長 ————— 上前腸骨棘から内果
3. 上腕周径 ————— 最大部
4. 下腿周径 ————— 最大部

あ 16-92 四肢の周径測定の際にその最大部を測定に用いないのはどれか。

1. 上腕周径
2. 前腕周径
3. 大腿周径
4. 下腿周径

あ 19-93 下肢長を脛骨内果から測定する際に近位側の測定点はどこか。

1. 大腿骨骨頭
2. 大腿骨大転子
3. 下前腸骨棘
4. 上前腸骨棘

はき 10-96 トーマステストの目的はどれか。

1. 腰部神経根圧迫の有無
2. 背筋の緊張の有無
3. 腸腰筋拘縮の有無
4. ハムストリングス短縮の有無

あ 22-96 良肢位で正しいのはどれか。

1. 肘関節伸展位
2. 母指対立位
3. 膝関節伸展位
4. 足関節底屈位

国際生活機能分類 ICF (3 問)

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 18-85 国際生活機能分類(ICF)について正しい記述はどれか。

1. 対象を障害者に限定して作成された分類法である。
2. 各構成要素の因果関係は両方向性である。
3. 生活機能とは日常生活動作のことである。
4. 個人因子とは健康状態のことである。

はき 22-84 国際生活機能分類(ICF)の構成要素で「参加」に該当するのはどれか。

1. 屋内手すりの設置
2. 短下肢装具の作製
3. 残存筋の強化
4. 麻痺手の回復訓練

はき 26-82 ICF の「活動」に該当するのはどれか。

1. 復学
2. 家屋改修
3. 障害年金受給
4. 義足作製

国際生活機能分類 ICF (5 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 16-91 国際生活機能分類(ICF)において、「課題や行為の個人による遂行」にあたるのはどれか。

1. 心身機能
2. 身体構造
3. 活 動
4. 参 加

あ 17-91 国際生活機能分類の障害レベルについて正しい組合せはどれか。

1. 片麻痺 ————— 活動制限
2. 更衣動作困難 —— 機能障害
3. 復職困難 ————— 参加制約
4. 排尿障害 ————— 参加制約

あ 20-91 国際生活機能分類(ICF)において、「活動」に該当するリハビリテーションはどれか。

1. 神経筋促通法
2. 就労支援
3. 関節可動域訓練
4. **利き手交換**

あ 23-79 ICFの「参加」に該当する内容はどれか。

1. **復職**
2. 片麻痺
3. 更衣動作
4. 高次脳機能障害

あ 25-79 ICFの「活動」に該当する内容はどれか。

1. 腎機能
2. **調理**
3. 筋力
4. 医療制度

ノーマライゼーション・IL運動（2問）

はき国家試験 **リハビリテーション医学**

【ノーマライゼーション】

なし

【IL運動】

はき 12-89 IL運動（自立生活運動）の思想で正しいのはどれか。

1. 身の回りのことで他人の助けを借りてはならない。
2. **障害者の自己決定には責任と義務を伴う。**
3. 職業を身につけることを最高の目標とする。
4. 障害者だけが住む施設内で生活する。

はき 19-84 IL運動（自立生活運動）の思想で正しいのはどれか。

1. 家族から経済的援助を受ける。
2. 障害者施設に入所する。
3. **自己決定権を尊重する。**
4. 日常生活で介助を受けない。

【ノーマライゼーション】

あ 13-97 ノーマライゼーションの考え方として正しいのはどれか。

1. 障害のある者とない者が地域で共に暮らす。
2. 理学療法によって身体障害を取り除く。
3. 障害者同士の心の交流を図る会を作る。
4. 障害者の健康増進を目指す。

あ 19-92 ノーマライゼーションの基本理念はどれか。

1. 障害者同士が交流を図る。
2. 障害者が健康増進を目指す。
3. 障害者が訓練により機能を回復する。
4. 障害者と健常者が地域で共に暮らす。

あ 22-91 ノーマライゼーションとして正しいのはどれか。

1. 施設内の介護
2. 運動療法の施行
3. エレベーターの導入
4. 障害者同士の交流

あ 28-79 ノーマライゼーションの考え方として正しいのはどれか。

1. 障害者施設を増やす。
2. 障害者同士の交流を深める。
3. 障害者の機能回復を促進する。
4. 障害者と健常者が地域で共に生活する。

【IL 運動】

なし

はき 14-87 成人の身体障害者について正しい記述はどれか。

1. 嚥下障害は聴覚・言語障害に分類される。
2. 最近では視覚障害者の増加率が最も高い。
3. 糖尿病は内部障害者として分類される。
4. 肢体不自由障害者の割合が最も多い。

はき 18-84 身体障害者の分類で割合が増加しているのはどれか。

1. 肢体不自由
2. 視覚障害
3. 内部障害
4. 聴覚・言語障害

身体障害（3問）

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 4-97 身体障害者福祉法に基づく内部障害でないのはどれか。

1. 心機能障害
2. 肝機能障害
3. 腎機能障害
4. 直腸膀胱障害

あ 7-98 身体障害に含まれないのはどれか。

1. 肢体不自由
2. 内部障害
3. 聴覚言語障害
4. てんかん

あ 19-91 18歳以上の在宅身体障害者で最も多い原因疾患はどれか。

1. 脳血管疾患
2. 腎臓疾患
3. 心臓疾患
4. 骨関節疾患

身体障害者手帳（4問）

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 11-89 身体障害者手帳の交付が最も多いのはどれか。

1. 視覚障害
2. 聴覚・言語障害
3. 肢体不自由
4. 内部障害

はき 15-84 我が国で身体障害者手帳の対象とならない病態はどれか。

1. 片麻痺
2. 失語症
3. 記憶障害
4. 慢性腎不全

はき 20-84 身体障害者手帳の交付対象でないのはどれか。

1. じん臓機能障害
2. そしゃく・嚥下機能障害
3. 平衡機能障害
4. 高次脳機能障害

はき 21-84 身体障害者手帳の種類と原因疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. 平衡機能障害 ————— 変形性膝関節症
2. 肢体不自由 ————— ベル麻痺
3. そしゃく機能障害 ——— 筋萎縮性側索硬化症
4. 内部障害 ————— パーキンソン病

日常生活動作 ADL (2 問)

はき 国家試験 リハビリテーション医学

はき 7-92 日常生活動作として適切でないのはどれか。

1. 歩 行
2. 買 物
3. 食 事
4. 更 衣

はき 14-90 ADL に分類されるのはどれか。

1. 買い物
2. 自動車運転
3. 整容
4. バス乗車

はき 16-87 日常生活動作の評価法の 1 つであるバーセル・インデックスの評価項目に含まれないのはどれか。

1. コミュニケーション
2. 移 乗
3. トイレ動作
4. 入 浴

はき 22-86 ADL 評価の FIM において正しいのはどれか。

1. 書字の項目がある。
2. 認知項目がある。
3. 各項目の点数は 0 点から 10 点である。
4. 総点は 100 点である。

日常生活動作 ADL (1 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 3-99 ADL の意味はどれか。

1. 筋力評価
2. 作業療法
3. 生きがい
4. 日常生活活動

あ 18-94 ADL の項目として正しいのはどれか。

1. 掃除
2. 入浴
3. 買物
4. 調理

日常生活関連動作 (APDL) (1 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 12-98 日常生活関連動作 (APDL) はどれか。

1. 整容
2. 洗濯
3. 入浴
4. 更衣

住宅ケア (1 問)

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 19-85 住宅ケアとして利用されるのはどれか。

1. 脳卒中ケアユニット
2. 通所リハビリテーション施設
3. 重度心身障害児病棟
4. 回復期リハビリテーション病棟

はき 26-83 腰痛体操はどれか。

1. フレンケル体操
2. クラップ体操
3. マッケンジー体操
4. バージェー体操

あ 11-100 治療体操と疾患との組合せで誤っているのはどれか。

1. フレンケル体操 — 脊柱側弯症
2. ウイリアムズ体操 — 腰痛症
3. バージェー体操 — 下肢血行障害
4. コッドマン体操 — 肩関節周囲炎

あ 14-103 訓練法と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. ボバース — 五十肩
2. フレンケル — 脳性麻痺
3. コッドマン — 運動失調
4. ウイリアムズ — 腰痛症

あ 15-100 コッドマン体操を行う際の正しい記述はどれか。

1. 直立姿勢で行う。
2. 片側ずつ実施する。
3. 体操前に肩をクーリングする。
4. おもりはできるだけ重いものを用いる。

あ 24-89 ウイリアムズ体操で正しいのはどれか。

1. 体幹の伸展を促す。
2. 腰椎の前弯を増強させる。
3. 肩甲骨周囲筋を強化する。
4. 股関節屈筋群を伸張させる。

あ 28-89 コッドマン体操で正しいのはどれか。

1. 直立位で行う。
2. おもりは 5kg が適切である。
3. おもりを持ち上げる運動を行う。
4. 関節可動域を拡大する。

徒手筋力テスト MMT (6 問)

はき 国家試験 リハビリテーション医学

はき 3-91 関節運動が重力に抗して全可動域にわたり可能となる最小の筋力はどれか。

1. 筋力 1
2. 筋力 2
3. 筋力 3
4. 筋力 4

はき 13-90 徒手筋力テストにおいて、重力に逆らうことはできないが、重力がなければ動かせる筋肉のグレードはどれか。

1. MMT4
2. MMT3
3. MMT2
4. MMT1

はき 14-89 大腿四頭筋の徒手筋力テストの際、被検者を側臥位で評価しなければならない筋肉はどれか。

1. MMT0
2. MMT2
3. MMT3
4. MMT5

はき 17-84 徒手筋力テストで筋の収縮はみられるが、関節運動は起こらないのはどれか。

1. MMT1
2. MMT2
3. MMT3
4. MMT4

はき 18-87 筋力 MMT2 の関節運動に対し筋力増強目的で運動療法を行う場合に、最も適切なのはどれか。

1. 他動運動
2. 自動運動
3. 自動介助運動
4. 漸増抵抗運動

はき 25-81 中殿筋のMMTについて正しい組み合わせはどれか。

1. MMT1 —— 中殿筋に筋収縮がみられる。
2. MMT2 —— 重力に抗して股関節外転を保持できる。
3. MMT3 —— 中等度の抵抗に抗して股関節外転を保持できる。
4. MMT4 —— 高度の抵抗に抗して股関節外転を保持できる。

徒手筋力テスト MMT (6 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 8-99 徒手筋力テストで重力を除去すれば完全に運動できるのはどれか。

1. 筋力 5
2. 筋力 4
3. 筋力 3
4. 筋力 2

あ 11-98 筋力と運動療法との組合せで適切でないのはどれか。

1. 筋力 0 — 他動運動
2. 筋力 1 — 自動介助運動
3. 筋力 2 — 抵抗運動
4. 筋力 3 — 自動運動

あ 15-92 右大殿筋の徒手筋力テストの際、3 以上の場合に検査時の体位で正しいのはどれか。

1. 背臥位
2. 腹臥位
3. 右側臥位
4. 左側臥位

あ 16-93 徒手筋力テストで MMT3 以上の場合に側臥位で測定するのはどれか。

1. 中殿筋
2. 腸腰筋
3. 大腿四頭筋
4. 前脛骨筋

あ 18-93 肩関節運動に対する徒手筋力テストの際、MMT 2 を評価するとき側臥位で実施するのはどれか。

1. 伸 展
2. 外 転
3. 内 旋
4. 外 旋

あ 22-93 徒手筋力テストで4以上の筋力を評価する際に座位で行うのはどれか。

1. 三角筋前部線維
2. 腹直筋
3. 中殿筋
4. 下腿三頭筋

関節可動域 (4 問)

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 8-92 関節可動域測定で誤っている記述はどれか。

1. 肩の屈曲は肩峰を通る床への垂直線を基本軸とする。
2. 手関節の屈曲は橈骨と第5中手骨との角度を測る。
3. 股関節の外転は大腿中央線を移動軸とする。
4. 膝の屈曲は大腿骨と腓骨との角度を測る。

はき 15-85 次の運動のなかで関節可動域の角度が最大なのはどれか。

1. 肩関節伸展 (後方挙上)
2. 手関節屈曲 (掌屈)
3. 股関節外転
4. 膝関節伸展

はき 16-86 関節可動域の測定基本肢位について誤っている組合せはどれか。

1. 肘関節屈曲 — 前腕回内位
2. 手関節橈屈 — 前腕回内位
3. 前腕回内 — 肘関節90度屈曲位
4. 肩関節外旋 — 肘関節90度屈曲位

はき 21-85 関節可動域測定法について正しい記述はどれか。

1. 自動運動で測定する際にはその旨を明記する。
2. 10度単位で測定する。
3. 基本肢位を90度として表示する。
4. 筋の短縮をみるには多関節筋を弛緩させる。

あ 3-101 関節可動域について正しいのはどれか。

1. 股関節屈曲： $0^{\circ} \sim 45^{\circ}$
2. 膝関節屈曲： $0^{\circ} \sim 90^{\circ}$
3. 肘関節屈曲： $0^{\circ} \sim 145^{\circ}$
4. 手関節掌屈： $0^{\circ} \sim 40^{\circ}$

あ 4-98 関節の正常可動範囲で正しいのはどれか。

1. 肩関節屈曲： $0^{\circ} \sim 70^{\circ}$
2. 手関節掌屈： $0^{\circ} \sim 40^{\circ}$
3. 股関節屈曲： $0^{\circ} \sim 70^{\circ}$
4. 足関節底屈： $0^{\circ} \sim 45^{\circ}$

あ 12-100 関節可動域で誤っている記述はどれか。

1. 肩関節屈曲は伸展より大きい。
2. 手関節橈屈は尺屈より大きい。
3. 股関節外転は内転より大きい。
4. 足関節屈曲は伸展より大きい。

あ 14-96 関節運動と最大可動域との組合せで正しいのはどれか。

1. 肩関節外旋 — 45度
2. 前腕回内 — 10度
3. 股関節外旋 — 45度
4. 足関節屈曲（底屈） — 20度

あ 17-92 関節運動と最大可動域との組合せで正しいのはどれか。

1. 片肩関節内転 ————— 30度
2. 肘関節屈曲 ————— 145度
3. 膝関節伸展 ————— 180度
4. 足関節伸展（背屈） ———— 50度

あ 18-92 関節可動域について正しい記述はどれか。

1. 頸部の伸展（後屈）は屈曲（前屈）より大きい。
2. 肩関節の外転は内転より大きい。
3. 手関節の屈曲（掌屈）は伸展（背屈）より大きい。
4. 股関節の伸展は屈曲より大きい。

あ 19-95 基本肢位における関節可動域角度で正しいのはどれか。

1. 肩関節外転 30 度
2. 肘関節屈曲 90 度
3. 膝関節伸展 20 度
4. 足関節背屈 0 度

あ 20-93 関節可動域で正しいのはどれか。

1. 足関節底屈：0 度～10 度
2. 前腕回内：0 度～30 度
3. 膝関節屈曲：0 度～60 度
4. 肩関節外転：0 度～180 度

反射（ 1 問 ）	はき国家試験 リハビリテーション医学
-----------	--------------------

はき 25-83 一生続く姿勢反射はどれか。

1. 自動歩行
2. モロー反射
3. パラシュート反射
4. 非対称性緊張性頸反射

反射（ 1 問 ）	あまし国家試験 リハビリテーション医学
-----------	---------------------

あ 1-97 反射現象で誤っているのはどれか。

1. 単シナプス反射は一つのニューロンによって成り立っている。
2. 膝蓋腱反射は大腿四頭筋の伸張反射である。
3. 痙性麻痺では深部腱反射が亢進している。
4. バビンスキー反射は病的反射である。

評価 分類（ 4 問 ）	はき国家試験 リハビリテーション医学
--------------	--------------------

はき 1-89 運動障害の評価法で正しいのはどれか。

1. 足関節の基本肢位を 90° とするのは誤りである。
2. 徒手筋力テストは 4 段階評価法である。
3. ブルンストロームのステージは末梢性麻痺に対する評価段階である。
4. 長谷川式スケールは関節可動域の評価法である。

はき 6-90 弛緩性麻痺の評価で適切でないのはどれか。

1. ブルンストロームのステージ
2. 日常生活動作テスト
3. 徒手筋力テスト
4. 四肢周径の測定

はき 7-90 障害の評価の目的で適切でないのはどれか。

1. 疾患原因の検討
2. 障害原因の検討
3. 治療目標の設定
4. 治療方法の検討

はき 21-86 痙縮の評価に用いるのはどれか。

1. 徒手筋力テスト
2. アシュワーススケール
3. 内田-クレペリンテスト
4. バーセルインデックス

評価 分類 (4 問)	あまし国家試験 リハビリテーション医学
---------------	---------------------

あ 6-98 障害における能力低下の評価はどれか。

1. 関節可動域テスト
2. 徒手筋力テスト
3. 日常生活動作テスト
4. ブルンストロームのステージ

あ 16-100 呼吸困難の程度を表わす分類はどれか。

1. ヒュー・ジョーンズ
2. スタインブロッカー
3. ウェクスラー
4. ブルンストローム

あ 19-94 運動の協調性をみる評価法はどれか。

1. 徒手筋力テスト
2. 拮抗運動反復テスト
3. バーセルインデックス
4. ブルンストロームステージ

あ 25-81 高次脳機能障害の評価で正しいのはどれか。

1. バーセルインデックス
2. 線分抹消テスト
3. 徒手筋力テスト
4. 拮抗運動反復テスト

改訂長谷川式簡易知能評価スケール（ 1 問 ）

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 12-90 改訂長谷川式簡易知能評価スケールの質問内容で誤っているのはどれか。

1. 年 齢
2. 言葉の記憶
3. 数字の逆唱
4. 漢字の読み

改訂長谷川式簡易知能評価スケール（ 2 問 ）

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 16-94 改訂版長谷川式簡易知能評価スケールの質問内容として誤っているのはどれか。

1. お歳はいくつですか。
2. 右手を上げて下さい。
3. これから言う数字を逆から言って下さい。
4. 100 から 7 を順番に引いて下さい。

あ 23-80 改訂長谷川式簡易知能評価スケールで正しい質問はどれか。

1. 足し算
2. 生年月日
3. 数字の逆唱
4. 昨日の出来事

心臓リハビリテーション（ 5 問 ）

はき国家試験 リハビリテーション医学

はき 2-96 心疾患の運動負荷試験について誤っている記述はどれか。

1. マスター2 階段法は段差を次第に高くする。
2. トレッドミルはベルトの傾斜やスピードを変化させる。
3. 自転車エルゴメーターは運動量をワット単位で表示できる。
4. 負荷が過大になれば心電図異常が出現しやすい。

はき 8-96 心疾患における運動強度の指標として適切でないのはどれか。

1. 6分間歩行テスト
2. メッツ (MET S)
3. 脈拍数
4. 血 圧

はき 24-86 急性心筋梗塞後のリハビリテーションについて最も適切なのはどれか。

1. 外来では行わない。
2. 6週間プログラムで行う。
3. 負荷試験をしながら進める。
4. 最大酸素摂取量での心拍数まで行う。

はき 25-87 心臓リハビリテーションの適応となるのはどれか。

1. うっ血性心不全 (NYHA IV 度)
2. 急性大動脈解離
3. 高度な大動脈弁狭窄
4. 冠動脈バイパス術後

はき 27-86 心臓リハビリテーションにおける運動負荷試験の中止基準として正しいのはどれか。

1. 疲 労
2. 息切れ
3. 筋肉痛
4. チアノーゼ

心臓リハビリテーション (1 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 25-88 心臓リハビリテーションにおける運動療法の禁忌はどれか。

1. 心移植後
2. 冠動脈形成術後
3. 不安定狭心症
4. 末梢動脈閉塞性疾患

はき 3-89 運動の強度メツツ (MET S) について正しい組合せはどれか。

1. 散歩 — 1~2
2. ボーリング — 2~4
3. ジョギング — 5~6
4. 登山 — 7~8

あ 8-98 四肢の計測で誤っている組合せはどれか。

1. 上肢長 ———— 肩峰から示指尖
2. 下肢長 ———— 上前腸骨棘から内果
3. 上腕周径 ———— 最大部
4. 下腿周径 ———— 最大部

あ 16-92 四肢の周径測定の際にその最大部を測定に用いないのはどれか。

1. 上腕周径
2. 前腕周径
3. 大腿周径
4. 下腿周径

あ 19-93 下肢長を脛骨内果から測定する際に近位側の測定点はどこか。

1. 大腿骨骨頭
2. 大腿骨大転子
3. 下前腸骨棘
4. 上前腸骨棘

はき 10-96 トーマステストの目的はどれか。

1. 腰部神経根圧迫の有無
2. 背筋の緊張の有無
3. 腸腰筋拘縮の有無
4. ハムストリングス短縮の有無

あ 22-96 良肢位で正しいのはどれか。

1. 肘関節伸展位
2. 母指対立位
3. 膝関節伸展位
4. 足関節底屈位